

第2期「東京グリーンシップ・アクション」第5回活動の報告 ～東京に残された貴重な自然環境を守る～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)は、環境貢献活動の一環として、2004年11月から東京都が主催する「東京グリーンシップ・アクション」に参加しております。今年度も前年度に引き続き、町田市にある図師小野路(ずしおのじ)歴史環境保全地域での活動を継続する中で、10月21日(土)に第2期第5回目(全6回)の環境保全活動を実施し、社員およびその家族33名が参加しましたのでお知らせいたします。

この環境保全活動は、典型的な里山の風景をそのまま保全している「図師小野路歴史環境保全地域」にて、環境保全にかかわる地元農家の方々の指導のもと、社員ボランティアが年間を通して自然と共存しながらの伝統的な農法による農業を体験するものです。参加者は今回で累計253名となりましたが、この環境保全型農業体験を通して、里山の自然や動植物の価値や保全の大切さについて認識を深めてきました。

第5回目である今回は、稲刈りを行いました。鎌を使い、手作業で稲を刈り取り、稲穂に泥がつかないようにいったん置きます。その稲を小束にして、組んだ竹竿にかけて干しました。稲を干す竹竿の竹は近くの竹やぶから切り出してきたものを使用しました。収穫のこの日を楽しみにしていた参加者はさわやかな汗を流しながら作業を行いました。

参加者の一人で、新日本石油ENEOS野球部 大久保 秀昭監督の夫人であるタレントの大東めぐみさんは、親子3代で参加し、「田んぼの泥に足をとられ思ったより大変な作業でしたが、母、子供と一緒に楽しくできました。少しでも環境保全のお手伝いできてよかった。」と明るく語っていました。

当社は、グループ理念に「エネルギーの未来を創造し 人と自然が調和した豊かな社会の実現に 貢献します」と掲げ、CSR活動強化の一環として、社会とのかかわりを大切に考え、積極的に環境貢献活動を推進しております。今後も本活動をはじめ、ENEOSカードによる社団法人国土緑化推進機構への寄付、「ENEOSの森」の森林保全など、さまざまな環境貢献活動を継続的に実施してまいります。

記

1. 東京グリーンシップ・アクション

保全地域※における企業・NPO等と東京都が連携した自然環境保全活動です。企業は一定の資金の提供とボランティア活動を行うことにより、都内の貴重な自然の保護や回復に協力します。

※「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づき、都が指定する地域です。良好な自然地や歴史的遺産と一体となった樹林など、都内に残る貴重な自然地を都民の大切な財産として未永く残していくことが目的です。現在都内には45カ所の「保全地域」があります。そのうちの6地域で本活動が行なわれています。

2. 協定期間 2006年1月26日～2007年3月31日

3. 活動場所 図師小野路歴史環境保全地域(東京都町田市)

4. 参加者 協定期間中、6回の里山保全活動が予定されております。毎回、当社社員ボランティアが参加します。

5. 役割分担

- ◆東京都 …活動の場の提供、道具類の貸与
- ◆NPO等(町田歴環管理組合) …活動の運営
- ◆企業(当社) …資金の提供、社員ボランティアの参加

6. 活動内容

回数	日程	活動内容
第1回	2006年 4月15日	保全地域内の見学
第2回	2006年 5月13日	草刈り、田おこし
第3回	2006年 6月17日	苗とり、田植え

回数	日程	活動内容
第4回	2006年 7月15日	田んぼの草取り、周囲の草刈り
第5回	2006年10月21日	稲刈り、稲の架け干し
第6回	2006年12月 2日	収穫行事体験

7. 函師小野路歴史環境保全地域の概要

(1) 指定年月日: 1978年7月4日

(2) 位置: 町田市の北部、函師町、小野路町にまたがる区域

(3) 面積: 366, 056m²

(4) 概要

町田市北部のなだらかに起伏する丘陵地。丘陵と谷戸が複雑に入り組んだ地形、典型的な里山の景観を成しており、丘陵部のクヌギ・コナラなどの雑木林と、谷戸部の耕作水田や湿性草地からなる多様な環境を反映して、多様な野生動植物が生息・生育する。

地元農家を中心に結成された「町田歴環管理組合」が、都の委託を受けて、1996年度から昔ながらの農業手法による維持管理を行なっている。それにより、30年以上 耕作放棄した谷戸田や溜め池が復元され、美しい里山の景観とともに、貴重な野生動植物が回復し、良好な自然環境を保全している。

8. 当日の様様



以上